ホームルーム活動（人権）学習指導案

１　主　　題　　名　HIV 感染について考えるⅡ
２　主題設定の理由（省略）
３　ね　　ら　　い

HIV感染やAIDSに重点を置き，関心をもたせ，感染経路や予防法について理解させるとともに普段の生活では感染しないことを理解させる。また，AIDSに関する偏見や差別，不安を取り除き，AIDS患者やHIV感染者と共に生活する社会をつくるために何が必要か考え，実践していこうとする態度を養う。

４　指　導　計　画

（１）これまでの学習
第１回　自分の進路について人権の視点から考えよう（講演会）学年集会・・・・・１時間
第２回　就職差別につながる14項目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１時間
第３回　高齢者の人権・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１時間
第４回　HIV感染について考えるⅠ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１時間
（２）本時の学習
第５回　HIV感染について考えるⅡ・・・・・・・・・・・・・・１時間（本時２／２時間）
（３）これからの学習
第６回　結婚のあり方について考える・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１時間

５　本　　　　時

（１）目　標
①HIV感染とAIDSの病原体，症状，感染経路などについて正しく理解させる。
②AIDS患者・HIV感染者とどのように共生していけばよいか考え，共に生きる社会をつくっていこうとする態度を育てる。
（２）普遍的な学習のテーマ・・・・・人権の概念，個人の尊重
　　　個別人権課題名・・・・・・・・・HIV感染者
（３）展　開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価
導入 (5分)	○前時の学習内容を振り返る。(HIV感染経路の復習)	○前時の内容を思い出させ，近年のエイズの現状や課題を理解させる。	
展開 (40分)	○社会生活で感染しないことを知る。	○社会生活(具体的な行動)で感染しないことを正しく理解させる。	○普段の社会生活では感染しないことを理解できている。 （知識的側面）
	○HIV感染者やAIDS患者数の増加について知り，今後関わる可能性のある身近な問題であることを学習する。	○日本や世界の感染者数の増加について知ることにより，今後より一層何が必要であるかを考えさせる。	○将来自分たちの身近なところで起こりうる問題としてとらえられている。 （価値的・態度的側面）
	○自分が感染した場合カミングアウトをするかどうかを考える。	○当事者の立場に立ち，様々な視点から柔軟に考えられるようにさせる。 ○カミングアウトしづらい背景に社会の偏見があることを理解させ，共生していくためにどのようにすればよいか考えさせる。	○当事者の立場になって考えられている。また，感染者と共生するために何が必要か考えることができている。 （技能的側面）
	○クラスメイトの意見を聞き，他人の意見を知り，それぞれの意見を発表し合う。	○多面的な視点から考えられるようにさせる。 ○正しく知ることが差別や偏見をなくす第一歩であることに気付かせる。	○問題解決の方法について協力しながら具体的に考えることができている。 （技能的側面）
まとめ (5分)	○本時の活動を振り返る。	○すべての人の人権が尊重される社会実現のためには，差別事象について主体的に考え，解消に向けて行動していく姿勢が大切であることを伝える。	○差別や偏見をなくして，共に生活していこうとする意欲をもつことができている。 （価値的・態度的側面）